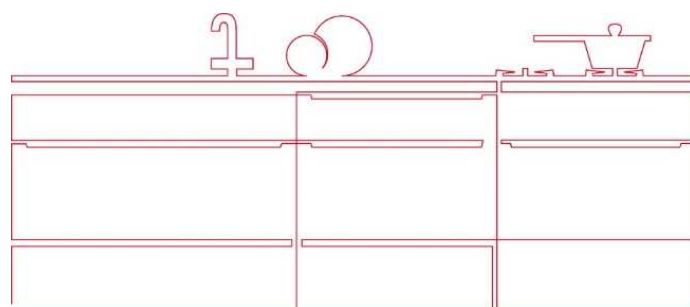


Kitchen Annual Report キッチン白書®2026

キッチン空間保有物調査
ー 買い置き行動の実態 ー



クリナップ®株式会社
おいしい暮らし研究所®



1. はじめに	3
2. 調査概要	4
3. 買い置き行動の実態 調査結果	
・年代別	5
・勤務形態別	6
・料理頻度との関係	7
・時短食品の利用頻度	8
・世帯構成との関係	9
・来客頻度との関係	10
・キッチン空間にある物の保有数	11
・キッチン収納との関係	12
・物の持ち方に対する意識	13
・その他の特徴的な傾向	14
4. まとめ	15

※キッチン白書の内容は、発行時点の情報に基づく解釈・予測であり、正確性・完全性を保証するものではありません。
様々な要因変化により、キッチン白書の予測と異なる結果となる可能性があります。

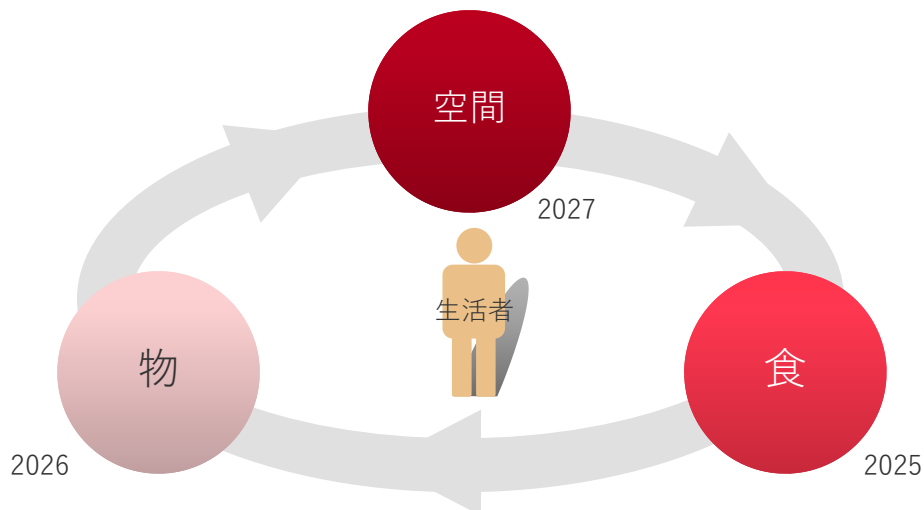
1. はじめに



クリナップは日本で初めてシステムキッチンを製造・販売したキッチンメーカーとして、キッチンにまつわる生活者の実態調査を継続的に実施しています。

今年度は、キッチン空間における物の保有状況に関する調査を実施しました。調査より「食品や日用品の買い置き行動」に着目し、買い置きしている人としていない人で、物の保有量や生活スタイルの違いを比較・分析した結果をキッチン白書としてまとめました。

クリナップは「家族の笑顔を創ります」という企業理念の下で、もっと食を、家族を、暮らしを、深く知り、考えていくために「食、物、空間」をテーマに様々な切り口で調査しています。調査の結果から見てきた生活者の“いま”をキッチン白書として2017年から公開しています。



2. 調査概要



調査手法	インターネットアンケート調査
調査期間	2025年9月22日(月)～25日(木)
調査対象地域	全国
調査対象者条件	<ul style="list-style-type: none">・ 20～69歳女性・ 2人以上世帯（配偶者またはパートナーと同居）・ 月1回以上自宅で料理する ※以下に該当する方は対象外 <ul style="list-style-type: none">・ 居住年数1年未満・ 直近1年以内にキッチンのリフォーム経験あり
回答者数	スクリーニング調査：17,107サンプル 本調査：2,000サンプル（各年代均等割付）

※本書に記載の「pt」はポイントの略で、二つの数量の差を示す

3. 買い置き行動の実態 調査結果 年代別

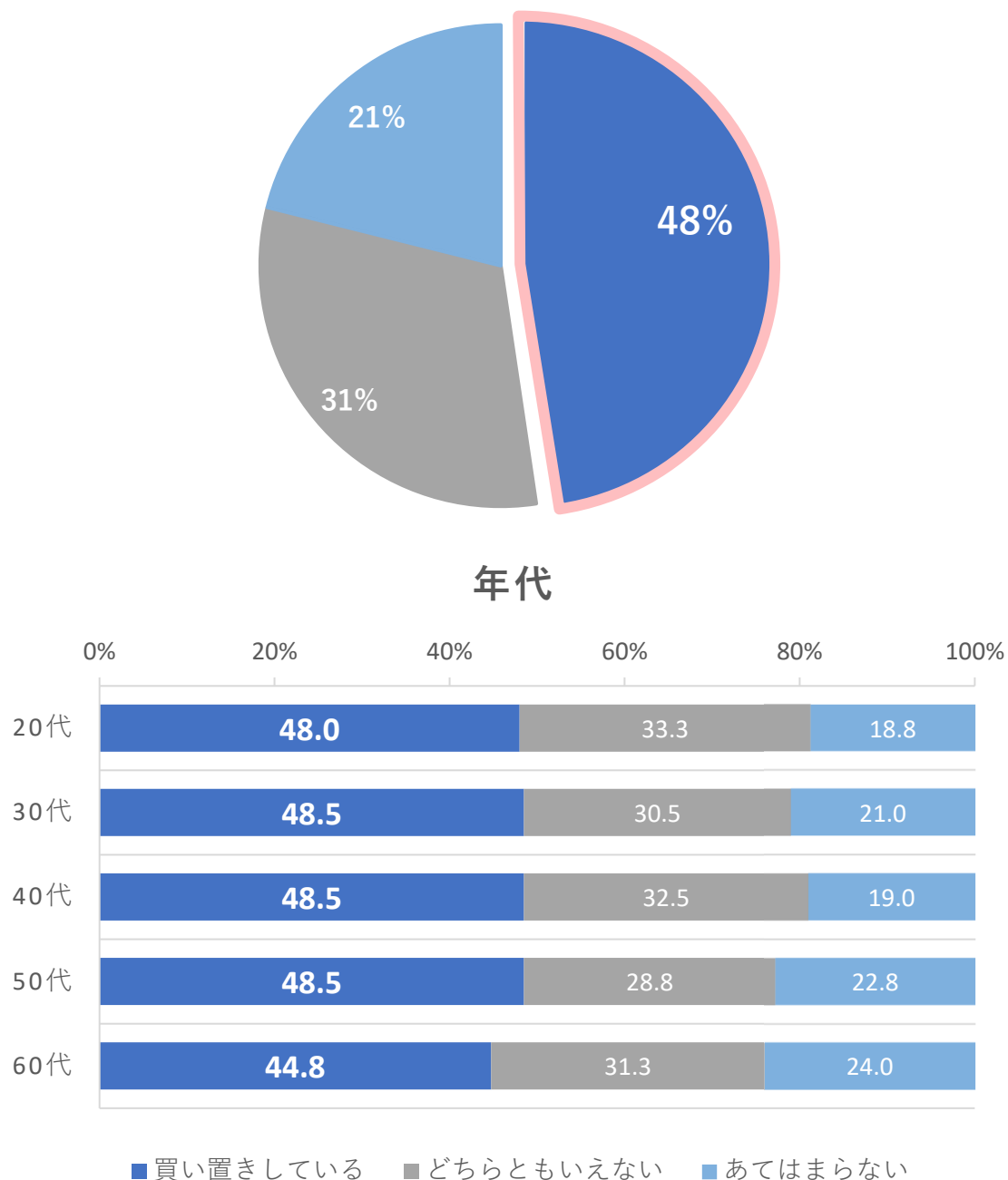


買い置きする人は年代でほとんど差はない

- 普段から食品や日用品を多めに買い置きしているかどうかについて聴取したところ、「買い置きしている」と回答した人は48%と、全体の約半数を占めていました。
- 年代別に見ると、20代～50代においてはその割合はほとんど変わりませんが、60代ではわずかに低くなります。

買い置きする人としいない人とは生活スタイルにどのような違いがあるのか、次ページ以降で探っていきます。

普段から食品や日用品を多めに買い置きしている



3. 買い置き行動の実態 調査結果 勤務形態別



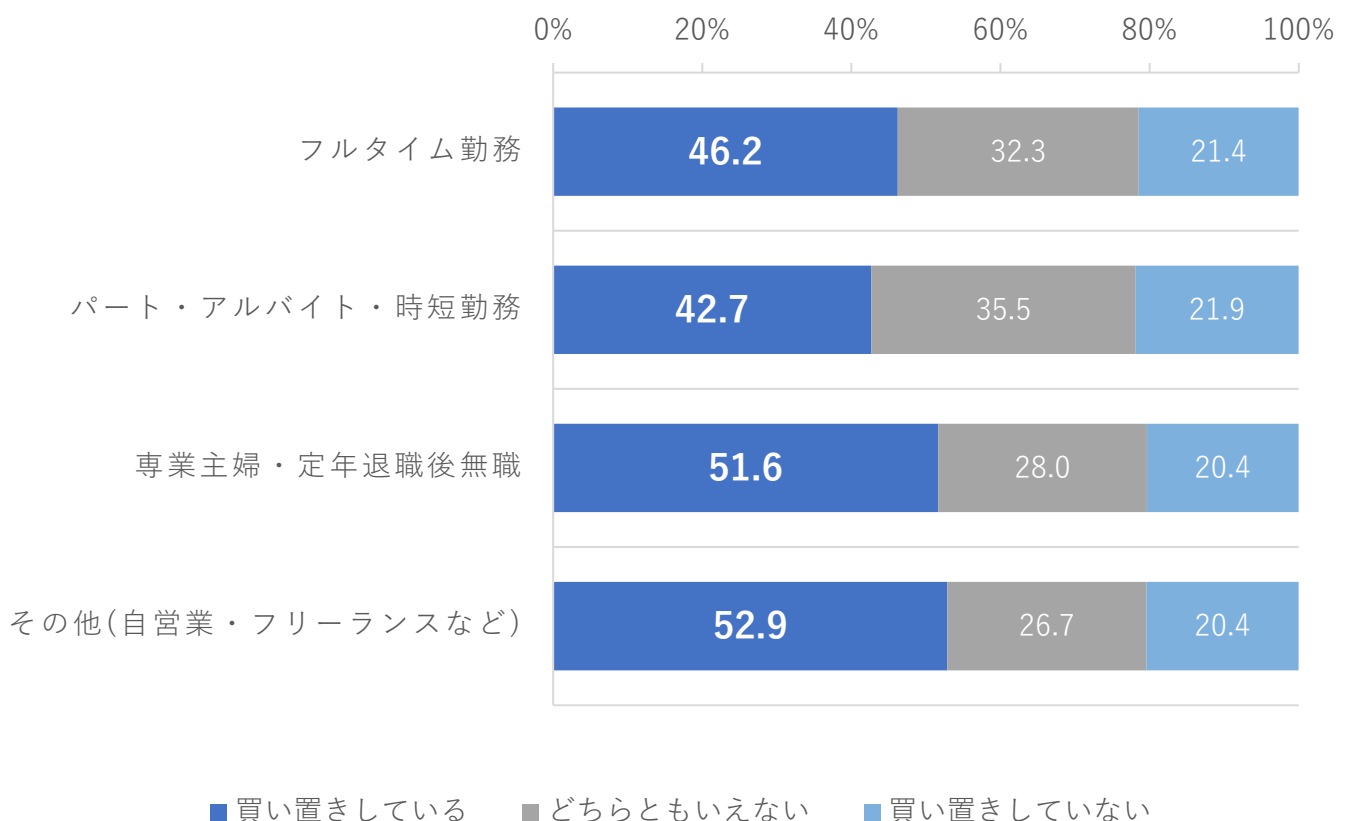
買い置きする人は時間的制約が少ない層が多い

まず、勤務形態別にはどのような違いがあるのかを見てみます。

- 「買い置きしている」と回答した人は、専業主婦・定年退職後無職で51.6%、その他（自営業・フリーランスなど）で52.9%と、いずれも半数を上回っています。一方、フルタイム勤務で46.2%、パート・アルバイト・時短勤務では42.7%と、時間の制約が大きい層ほど買い置きしている人の割合がやや低い傾向が見られます。

時間の制約が大きい共働き層が効率を考えて買い置きしているのではないかと想定していましたが、今回の結果からは必ずしもそうとは言えないようです。

勤務形態



3. 買い置き行動の実態 調査結果 時短食品の利用頻度



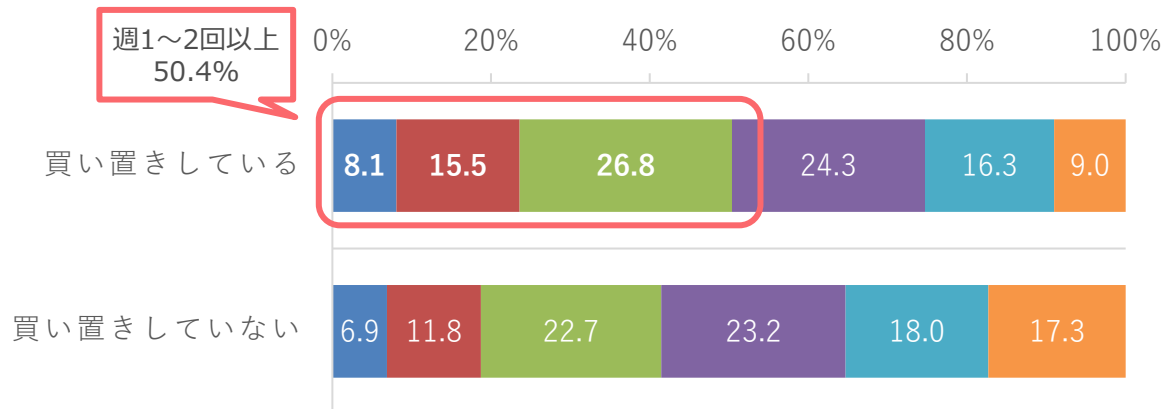
買い置きしている人の方が時短食品の利用頻度が高い

では、普段の料理の内容に違いはあるのでしょうか。

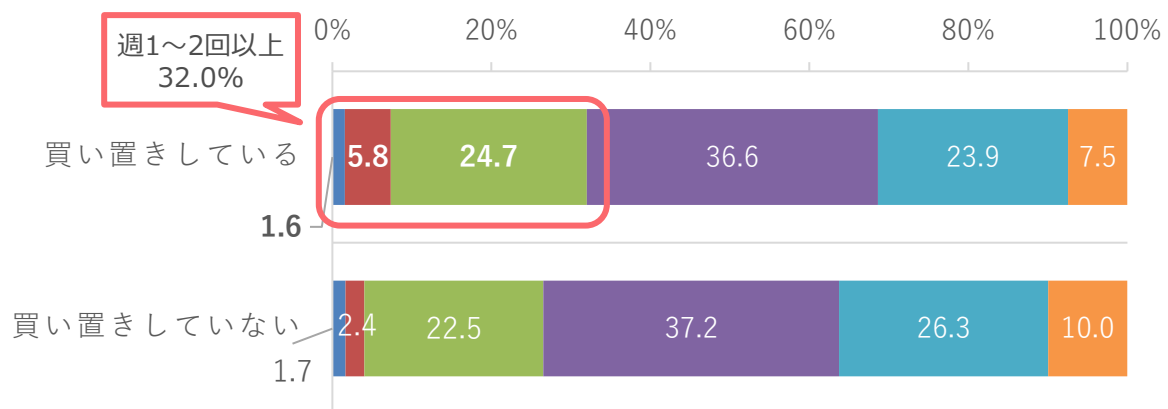
- 買い置きしている人では、加工調味料を「週1回以上」利用している人の割合の合計が50.4%と、買い置きしていない人に比べ9pt高くなっています。
- また、レトルト・インスタント食品/缶詰でも同様に、「週1回以上」利用している人の割合の合計が32%と、買い置きしていない人に比べ6pt高くなっています。

やはり、買い置きできる常温保存可能な食品を普段の料理にも活用している様子が見て取れます。

加工調味料の利用頻度



レトルト・インスタント食品/缶詰の利用頻度



- ほぼ毎日
- 週3~5日程度
- 週に1~2日程度
- 月に1~3日程度
- 月に1日未満
- まったく使わない

3. 買い置き行動の実態 調査結果 世帯構成との関係

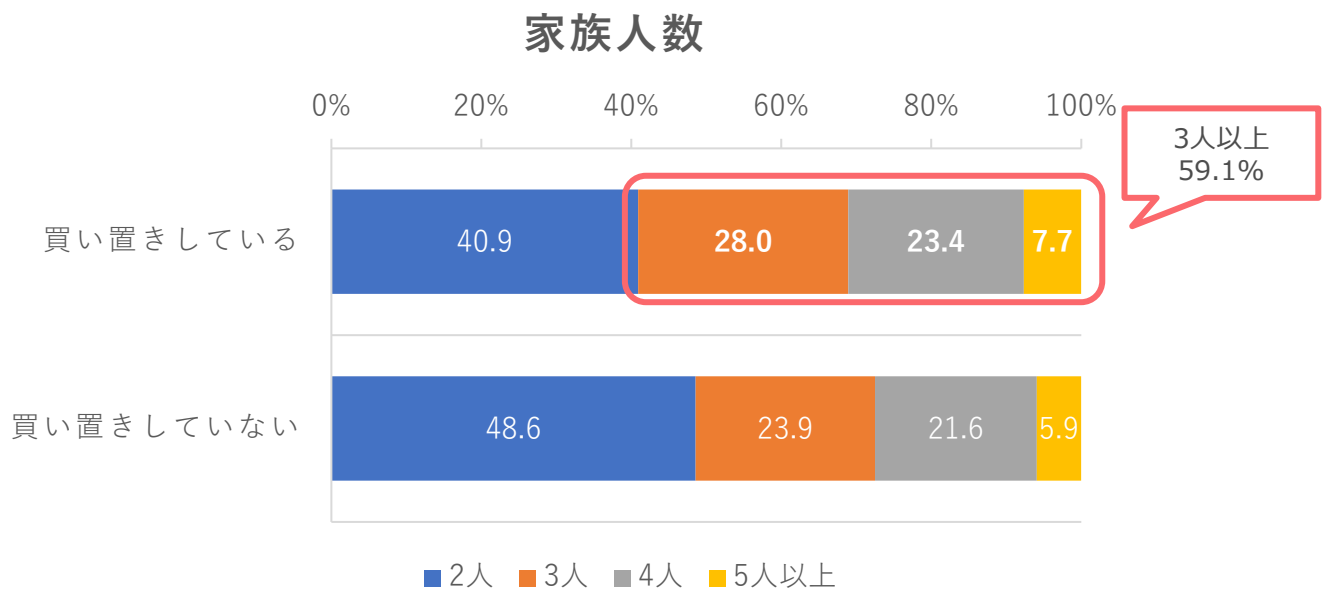


買い置きする人の方が家族人数が多い

続いて、世帯構成との関係を見ていきます。

- 買い置きしている人は「3人以上」の世帯の割合が59.1%と買い置きしていない人に比べ約7pt高く、家族人数が多いという傾向が見られます。

子どもがいる世帯や家族人数の多い世帯では、家族からの急な要望や品数の追加などにも対応できるよう、日常的に買い置きしているのかもしれませんが。



3. 買い置き行動の実態 調査結果 来客頻度との関係

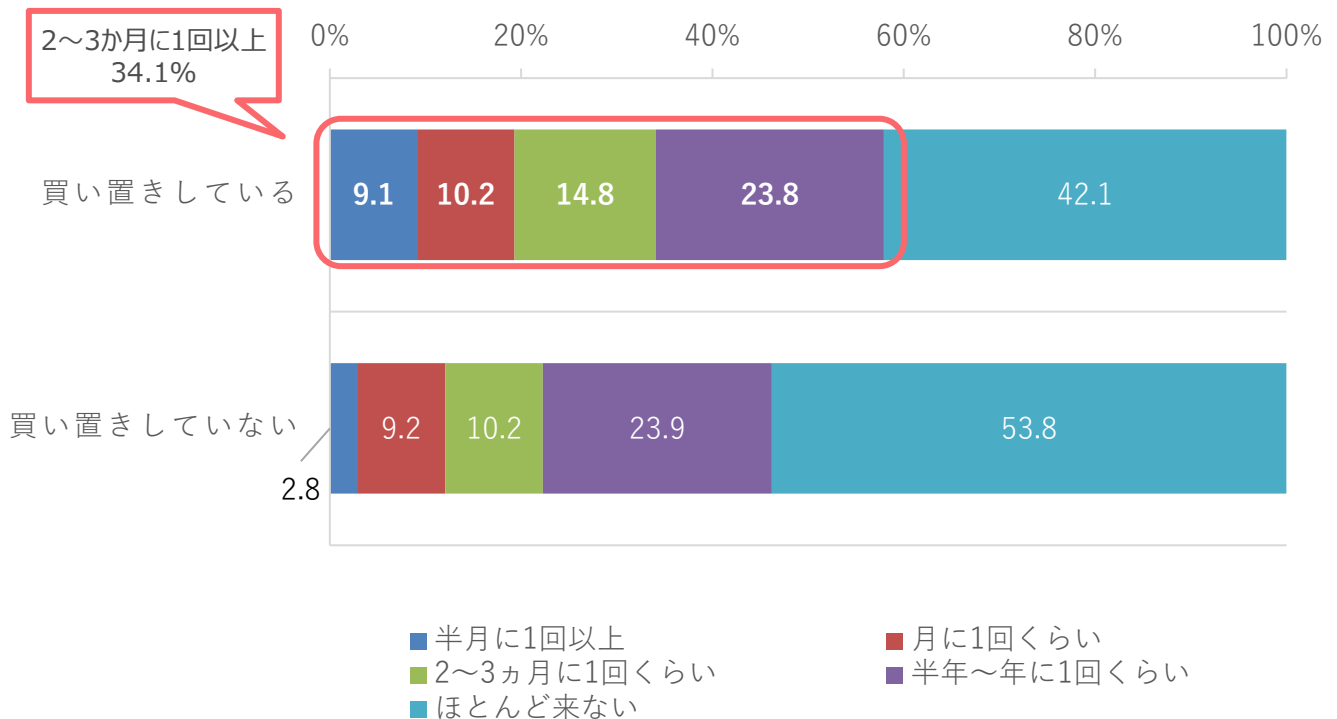


買い置きする人の方が来客頻度が高い

さらに、来約頻度を見てみます。

- 買い置きしている人は、自宅に人を招く頻度が「2～3か月に1回以上」の割合が合計で34.1%と、買い置きしていない人に比べ12pt高く、来客頻度が高い傾向が見られます。急な来客など咄嗟の際に備えて日常的に一定量の食材を備えていることも考えられます。

自宅に人を招く頻度



3. 買い置き行動の実態 調査結果 キッチン空間にある物の保有数



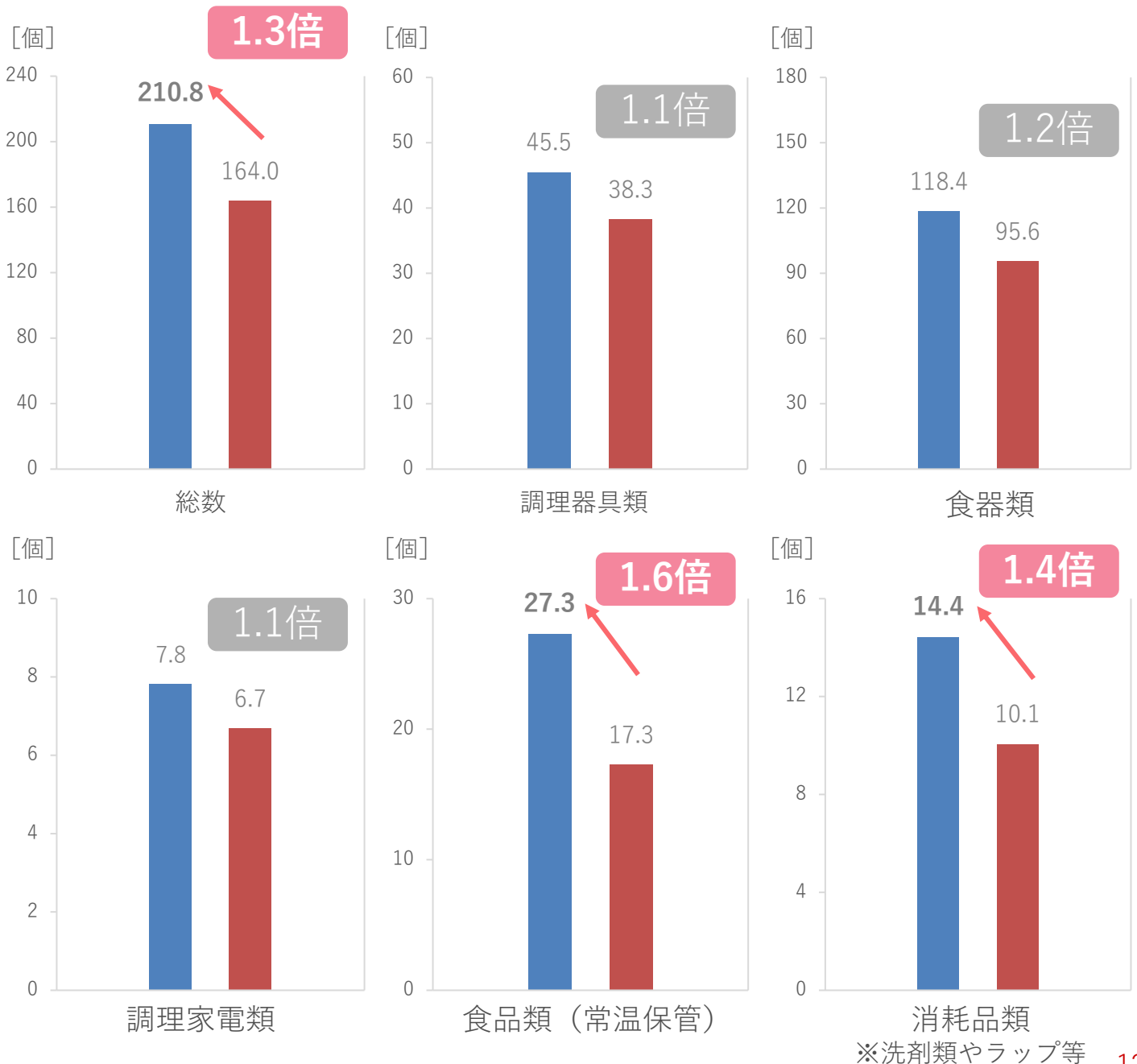
買い置きしている人で特に常温保存食品の保有数が多い

では実際に、買い置きしている人がどのくらいの物を保有しているのか見てみます。

- 買い置きをしている人では、キッチン空間にある物の「総数」は買い置きしていない人の1.3倍で、そのなかでも「食品類（常温保管）」は1.6倍、「消耗品類」は1.4倍多く保有しているという結果になっています。

このようにキッチン空間にある物の保有数には大きな差が確認され、特に食品類、消耗品類の多さの差が目立ちます。また、買い置きしている人は自身だけでなく家族の料理頻度も高い傾向が見られることから、キッチンに立つ人それぞれの好みに合わせた物を使うことが、物の多さにつながっている可能性も考えられます。

平均保有数



3. 買い置き行動の実態 調査結果 キッチン収納との関係



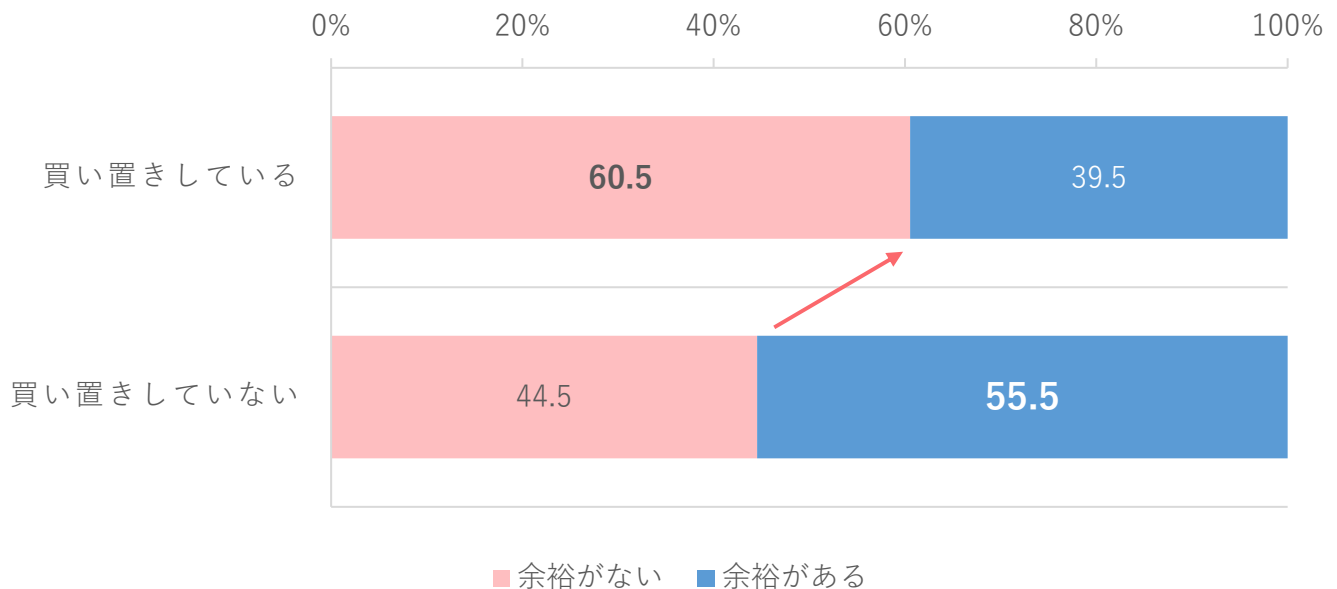
買い置き行動は収納の不足感につながっている

では、キッチンの収納量についてはどうでしょうか。

- 買い置きしている人では「余裕がない」と回答した人の割合が60.5%と、買い置きしていない人に比べ16pt高く、キッチン収納の不足感を感じています。

買い置き行動は、収納に余裕がある人が行っているとは限らず、むしろ買い置きによってキッチンの収納量の圧迫につながっていると考えられます。

キッチンの収納量について



3. 買い置き行動の実態 調査結果 物の持ち方に対する意識



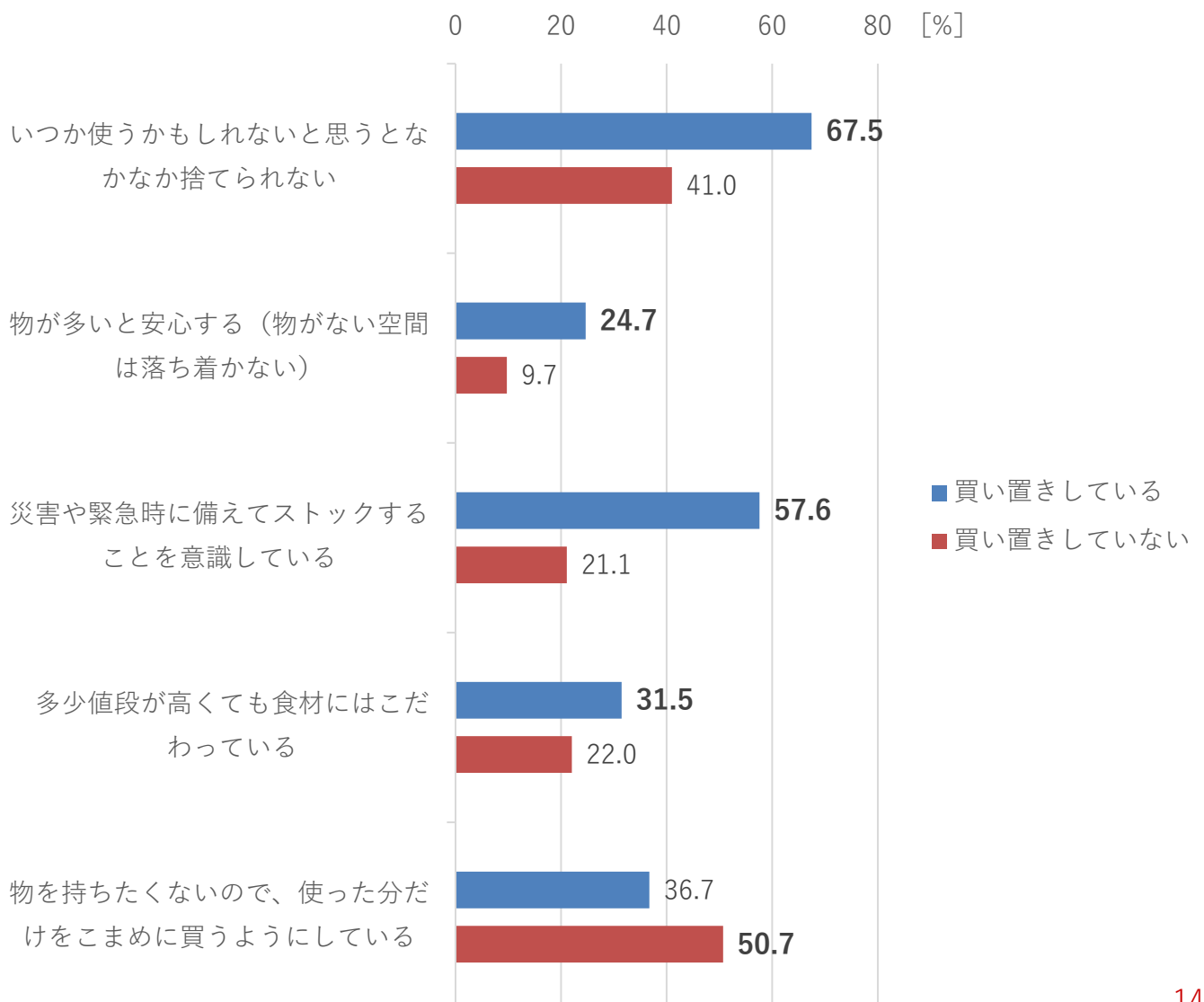
買い置きする人は「備え」と「安心」を重視

では、なぜ収納に余裕がなくても買い置きをするのでしょうか。買い置き行動の背景を探るため、物の持ち方に対する意識との関係についても確認します。

- 買い置きしている人はしていない人に比べ「いつか使うかもしれないと思うとなかなか捨てられない」「物が多いと安心する」といった志向に加え、「災害や緊急時に備えてストックを意識してる」といった防災・備蓄に対する意識も高いことがわかります。また「多少値段が高くても食材にはこだわっている」と回答した人の割合も高く、節約志向が特段強いというわけでもなさそうです。
- 一方、買い置きしていない人は「必要な分だけその都度購入する」と回答した人の割合が買い置きしている人よりも高く、保有量を抑えたシンプルな暮らしを重視する傾向が見られます。

これらの結果から、買い置きは節約が目的というよりも、“備え”や“安心”を重視する行動でもあると考えられます。

物の持ち方に対する意識



3. 買い置き行動の実態 調査結果 その他の特徴的な傾向



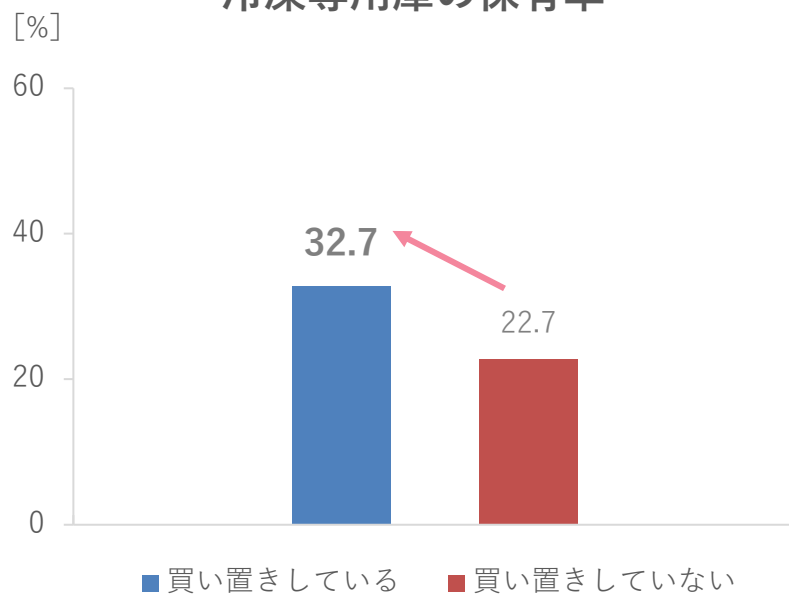
買い置きする人は保存手段も拡張している

最後に、備えの行動の一環として買い置きしている人に見られた特徴的な傾向をもう一つ紹介します。

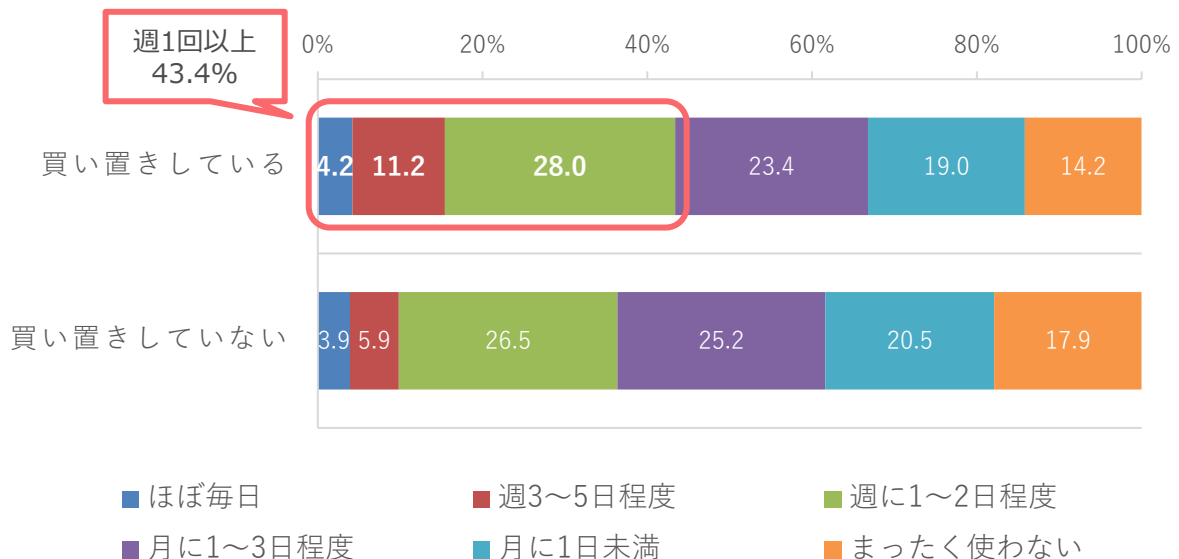
- 冷凍専用庫の保有率は買い置きしている人で32.7%と、買い置きしていない人に比べ10pt高くなっています。また、冷凍食品を「週1回以上」利用している人の割合の合計は43.4%と買い置きしていない人よりも7pt高く、実際に高頻度で利用していることが分かります。

買い置きしている人は、常温保存食品に加えて冷凍食品も積極的に活用できるよう、保存手段を拡張して日々の料理に備えているようです。

冷凍専用庫の保有率



冷凍食品の利用頻度



4. まとめ

- 買い置き行動は全体の約半数で行われており、時間的制約に対処するために買い置きしているわけではない
- 買い置きしている人ほど、自身および家族の料理頻度が高く、家族人数や来客機会も多いという生活スタイルである
- 買い置き行動はキッチン収納の圧迫につながっている
- 買い置きは節約が目的というよりも、もしもの時の“備え”や“安心”を担保するための行動でもある
- 買い置きしている人は、常温保存食品や冷凍食品を効率的に活用できるよう、冷凍専用庫など保存手段も拡張し、日々の料理に備えている



今回の調査から、買い置き行動は節約のための行動というよりも、もしもの時の備えを重視する意識が背景にあり、生活の安定を確保するための行動であることが見えてきました。

特に、買い置きされた食品は普段の食事だけでなく、家族からの要望や急な来客時などにサッと手軽に食事を提供するためにも活用されている可能性が考えられ、さらに、冷凍専用庫などを取り入れることで保存場所を拡張するという工夫が行われている様子も見られます。

また、キッチンに立つ人ごとに使用する食材や調味料が違うなど料理スタイルが異なることで、家族それぞれが料理するキッチンには自然と多くのアイテムが集まっている、そんなシーンもイメージできそうです。

クリナップはキッチンメーカーとして、現代のそのような生活に寄り添い、より快適な暮らしを今後も支え続けて参ります。







おいしい暮らし研究所®は、生活者の食や暮らしに関する情報の収集、調査・分析を行っているクリナップの研究部門です。

料理を作るキッチンだけではなく、作った料理を”おいしく楽しく食べられるような空間“作りも意識しながら調査を実施し、継続的にキッチン白書の充実を図ってまいります。

<本書に関するお問い合わせ先>

クリナップ株式会社 総務部 広報・IR課 E-mail : inq@cleanup.jp
過去のキッチン白書については… <https://cleanup.jp/oikura/kitchen-hakusyo/>

※本書原稿及び記載データの無断転載を禁じます